

みいけたんこう 三池炭鉱

所在地／大牟田市・熊本県荒尾市

指定／世界文化遺産、国重要文化財、国史跡ほか



三池炭鉱宮原坑、手前は炭鉱鉄道



荒尾市にまたがる万田坑の建物とやぐら

明治時代、日本ではそれまで人の力だけで行っていた、ものを作って運ぶ作業に、機械も使うようになりました。これを産業革命さんぎょうかくめいといいます。当時、機械きかいを動かす燃料ねんりょうには、石炭という燃える石が使われていました。福岡県には石炭がたくさん埋まっており、地下から石炭を掘り出す炭鉱たんこうが、各地で開かれました。その中でも特に大きかったのが、大牟田市の三池炭鉱です。

大牟田の石炭は室町時代むろまちに発見され、江戸時代えどから石炭を掘っていました。明治時代になると、三池炭鉱として国や会社はこの炭鉱を広げ、たくさんの石炭を掘り出しました。掘り出した石炭を運ぶため、鉄道や三池港もつくられました。三池炭鉱の石炭は、日本を豊かで強い国にするのに役立ちました。一方、地下の労働ろうどうはきびしく、炭鉱たんこう事故で亡くなった人もたくさんいました。

やがて主な燃料が石油に変わり、値段の安い石炭が海外から多く輸入されるようになると、三池炭鉱はその役割を終え、1997（平成9）年に閉山へいざん（※）しました。しかし三池の人々は石炭を掘っていた時代を伝えようと試みます。その結果、炭鉱、鉄道跡、港という、石炭を掘って運んで積み出す施設が、セットで現在まで残されました。こうして保存された三池炭鉱は、三池港などとともに、現在世界文化遺産に登録されています。

※閉山：石炭を掘ることをやめて、炭鉱を閉鎖すること。

【もっとくわしく調べたい】

○大牟田市石炭産業科学館 福岡県大牟田市岬町 6-23 Tel 0944-53-2377

【三池炭鉱（宮原坑）に行ってみよう】

○JR・西鉄大牟田駅から西鉄バスで早鐘眼鏡橋下車、徒歩7分